

こんにちは、社長です。

*トピック快談



「地震に無傷」のキャッチフレーズでおなじみの百年住宅。

今年1月に社名変更し、ますますその特徴を生かした家づくりを行っている。

今年から新社長に就任した中嶋雄社長に、地震に強い理由や目指すべき目標を伺った。

Talk with The T

百年住宅
株式会社

100年住み続けられる家づくり

今年「静岡レスコハウス」から「百年住宅」へと社名変更しました。もっと長持ちする家をつくりたい。そんな思いが込められています。日本の家は20年から30年で建て替えるのが一般的。その中で100年持つ家が現実的にならばいいなど。流行のデザインを追うのではなく、変わらないという価値を大事にした上で、地震、火災などさまざまな災害から住む人を守る強さと耐久性を兼ね備えていないと100年住宅とはいえません。また、ライフスタイルに合わせての間取り変更もできなくてはならない。当社の住宅は構造体が頑丈だからそれらが実現できるのです。

地震に強い3つの理由

地震による被害ランクは全壊、半壊、一部損壊、損壊なしの4つです。一般的に全半壊なし、とはいいますが、一部損壊の有無はあまり問題視されていません。しかし、これは大きな問題です。一部損壊といっても、実は修理に500万、1,000万かかるのは珍しくないのです。百年住宅と同じWPC住宅は、阪神大震災で495棟中、全半壊および一部損壊もゼロ。無傷なんです。この強さの秘密は、WPC工法にあります。一つ目は面で支えるということ。壁全体で支えるから、ゆがみを抑えられるのです。もう一つは壁自体の強さ。これは水分の少ないプレキャストコンクリートによって実現しました。さらに地震の揺れと同調しにくいということ。地震と同調し、揺れが増長してしまう共振によって被害は拡大します。これはブランコをタイミングよく押すと、揺れがどんどん大きくなるのと同じ。WPC工法は非常に硬い造りで、揺れに同調しないから被害を抑えることができるのです。



大事なのは
剣さとし
感謝の気持ち

WORDS FOR A STEIN



百年住宅株式会社 代表取締役社長 中嶋雄氏



サイクリングで風を感じる

いまはまっているのが、ロードサイクリング。学生のときにツールドフランスを見て、かっこいいな、と思ったんですね。今は自宅から自転車で会社まで通っています。このあたりだと、三保まで続く海沿いの道が気持ちいいですよ。走っていると風を感じることができるんです。いつか大会にも出てみたいです。休日は家族サービスしています。子どもと公園で遊んだり一緒に虫を捕ったり。まだ子どもが小さいので今は無理ですが、野球が好きなので、いずれは子どもとキャッチボールをするのが楽しみです。

人生をかけて守りたいもの

住宅は一生に一度の買い物。ましてや100年ともなれば、3世代です。ですから、真剣さでお客様に負けられません。そして感謝。お客様の玄関先では当然ですが、敷地に入るときにも必ず一礼します。親への感謝を表すため、

初任給でプレゼントを贈る親孝行月間も設けました。こうして社員の感謝の気持ちを育てようとしています。同時に、働く環境づくりも重要視しています。現在女性社員は30名程度。そのうち、出産して復帰の方が5、6名いますが、子育てとの両立ができるよう、時短制度を奨励しています。会社の目標は、現在行っている構造体35年保証をもっと充実させること。今でも業界最長ですが、その強化や地震保障にも取り組みたい。そして、私の人生をかけて社員という家族を守り、WPC工法を広めることにも全力を尽くすつもりです。それがお客様の命と財産を守ることにつながるのですから。

1974年静岡市生まれ。

千葉大学工学部卒業後、住宅メーカー勤務を経て98年静岡レスコハウス入社。常務、専務を経て今年1月、社長に就任。